

平成28年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（公民的分野）
発行者名（番号）・教科書名	東京書籍（2） 新編 新しい社会 公民
1 取扱内容	<p>・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び、学習指導要領で定める社会科の目標を達成する上で、基本的な事項を全て取り上げている。</p> <p>また、今日的な課題に関する資料も豊富に取り入れ、自己と他者の人格を尊重し、ともに協力しながら、より良い社会を形成していくための力を育む内容となっている。</p>
2 内容の選択及び扱い	<p>・全6章を通して、基礎的・基本的な知識及び技能がわかりやすく書かれており、生徒の興味・関心をひく「導入資料」、学習のめあてがわかる「学習課題」、学習内容をまとめる「確認」、さらに深める学習の「えんぴつマーク」というスタイルで構造化され、学習内容が確実に定着するよう工夫されている。</p> <p>・単元末のまとめとして「ディベート」（p 68～p 69）、「プレゼンテーション」（p 164～p 165）等のコーナーがあり、今日的な課題について、多様な言語活動が取り上げられている。総合的な学習の時間との関連を持たせ、単元の学習内容を社会で活用したり実践したりする力の基礎を養えるよう工夫されている。</p> <p>・「現代社会をとらえる見方や考え方」（p 24～p 31）について、「対立と合意、効率と公正」という抽象的な概念を、学校や自治会などの身近な事例をもとに具体的に考え、確実に習得できる内容になっている。</p> <p>・年表や地図を取り入れて、「伝統や文化、宗教の理解」（p 16～23、p 190～p 193）を考えたりするなど、歴史的分野・地理的分野との関連による、系統的な学習を重視すると共に、道徳教育との関連も図られている。</p> <p>・学習のポイントごとに「公民にチャレンジ」にコーナーが設けられ、話し合いなどの参加学習の手法を用いた言語活動の例が示され、思考力・判断力・表現力が育成されるように工夫されている（p 53、p 59、p 107、p 123、p 157等）。</p> <p>・「公民にアクセス」などで、日本固有の領土である北方領土や竹島、尖閣諸島をめぐる動きなどを取り上げ、わが国の領土について正しく理解し、解決に向けての意識を高められるような内容となっている（p 196）。</p> <p>・「日本のエネルギー政策のこれから」（p 182）では、福島第一原子力発電所の事故や福島県の復興を取り上げながら、これからの日本のエネルギー政策について考えられる内容となっている。</p> <p>・政党名の列記をしてあるが、近年の政治情勢では「新たな政党」が出現することも考えられる。</p>
3 内容の程度	<p>・文章による説明内容が精選され、因果関係をわかりやすく記述し、表現も平易である。</p> <p>・「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」（p 118～p 119）など、各章で生徒の日常生活と結びついている題材を取り上げ、興味関心をもって作業し学習できる項目を設けるなど、適切な課題設定に配慮した内容となっている。</p>

4 内容の構成及び配列	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会と私たちの生活」27ページ、「個人の尊重と日本国憲法」37ページ、「現在の民主政治と社会」45ページ、「私たちの暮らしと経済」49ページ、「地球社会とわたしたち」37ページ、「よりよい社会をめざして」7ページと、学習内容がバランスよく配置され、基礎的基本的な知識を中心として簡潔まとめられており、学習しやすい配分、配列となっている。 ・見開き2ページを1単位時間として構成し、学習課題と学習内容のまとめを設けてあるため、学習内容を振り返ることができる。 ・図解、写真、グラフ、新聞記事、コラムなどの資料は、まとまりで通し番号がつけられ、掲載数も多いため授業で活用しやすく配列されている。
5 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・他社の教科書と比べて、非常に多くのコラム「公民にアクセス」や「ティークレイク」などの作業を伴うコーナーが盛り込まれているため、社会事象を様々な方向から多角的多面的に考え、考察する力を伸ばす工夫がなされている。 ・見開きごとに「確認」を設け生徒が短時間で学習内容を振り返り、自分の言葉で要約・説明できる場としての言語活動を豊富に設け、日常的に思考・判断・表現する活動が行えるよう工夫されている。特に「考えよう」は、生徒が考えを深める工夫としては使いやすい。 ・「公民にチャレンジ」では、発展的に学習し、学習した内容から表現力を養うよう配慮されている。 ・マークを統一させて、随所にあるため、「効率と公正」を意識できるような工夫が見られる。 ・各ページに「ためしてみよう」など興味や疑問を抱かせる設問があり、考えやすい。
6 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・本文は文字の大きさ・適度な字間・行間の広さであり、読みやすいが、本文以外の文字は小さくて見にくい。 ・判型はワイド(A B版)のため鮮明な写真や図表が多く配列されているが、全体的に小さく感じる。そのため、かえって生徒に思考させる中心となる図表や写真が目立たないと感じる。
7 その他	
総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き2ページで1単位時間」であるか、「1単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、この教科書は、「やや適している」と判断する。

平成28年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（公民的分野）
発行者名（番号）・教科書名	教育出版（17） 中学社会 公民 ともに生きる
1 取扱内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び、学習指導要領で定める社会科の目標を達成する上で、基本的な事項を全て取り上げている。また、今日的な課題に関する資料も豊富に取り入れられている。 ・社会的事象を多面的・多角的に広い視野でとらえ、自己との関わりについて考え、自分の言葉で表現できる力を身につけられるよう工夫されている。
2 内容の選択及び扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章第3節で「対立と合意」「効率と公正」などの概念を、具体的な事例を取り上げて丁寧に解説すると共に、毎時の「ふりかえる」にもその概念を意識した表現活動が取り上げられている。 ・各章の最後の「学習のまとめと表現」では、学習内容を不理科って整理するだけでなく、学習内容を活用して考察して考察を深める言語活動が取り上げられ、総合の時間との関連を持たせることができる内容となっている。 ・全体を通して、社会体験や模擬体験に取り組む同世代の中学生の姿を多くの写真などで紹介し、学習意欲の喚起や社会への参画意識の向上を図る内容となっている（p11等多数）。 ・小学校学習指導要領にも盛り込まれている「法教育」「金融教育」の内容について、より深化させた学習が展開できる内容となっている（p24～p29）。 ・地理的分野や歴史的分野の学習との関連を図る観点から、例えば建築技術や食等を通して、日本の伝統文化について考えさせたり、終章に社会科のまとめを取り入れたたりして、系統性を持たせた内容となっている。 ・「言葉で伝えあおう」という特設ページ（p30～p31）では、情報リテラシーとは何かや、監視カメラの設置に関する議論等、身近な社会事象をテーマに。ディベートやシュミレーション等の言語活動に取り組む中で、社会の一員としてとして自覚が高められる内容になっている。 ・「地方自治と住民の参加」においては、市町村合併や少子高齢化への対応等、多くの「課題」が設定されており、自分の地域に当てはめて考察できる内容となっている（p106～p115）。 ・日本固有の領土である北方領土や竹島、尖閣諸島をめぐる動きなどを取り上げ、近隣諸国とどのような関係を築いて課題を解決をめざすのか考察できる内容となっている（p181、p188）。 ・「これからの資源とエネルギー」（p202）では、事故後の福島第一発電所や様々な再生可能エネルギーの資料等が紹介され、資源・エネルギーを安全に、持続可能な方法で利用するにはどうしたらよいかを考えさせる内容となっている。
3 内容の程度	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の記述と資料を視覚的にとらえやすく配置し、写真・グラフ・図解等の資料が豊富なため、基礎的・基本的な内容の理解が図りやすくなっている。 ・基本的な内容をおさえながら、「公民の窓」を通して、本文の内容をより広くそして深く理解できるようになっている。 ・時事的なテーマや地域の事例と関連づけて資料を読み深めていくことがで

	<p>きるよう、「読んで深く考えよう」の特設ページが設けられている。</p>
4 内容の構成及び配列	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちの暮らしと現代社会」22ページ、「人間を尊重する日本国憲法」40ページ、「私たちの暮らしと民主政治」44ページ、「わたしたちの暮らしと経済」36ページ、「安心して暮らせる社会」24ページ、「国際社会に生きるわたしたち」30ページ、「わたしたちのできること」7ページの7章構成である。 ・見開き2ページで1単位時間の学習ができるよう効率よく指導できる構成と配列になっている。 ・「公民にアプローチ」のコーナーを設け、新聞の活用に仕方について学ぶことができる。
5 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・本文ページのタイトルは主題と副題を置くなど、単元の見出しに創意工夫が見られ、ページごとに資料、課題等が配置され「学習課題」が明示されているため、生徒が課題意識を明確にして学習に取り組めるよう工夫されている。 ・学習課題に対応してページごとに「ふりかえる」コーナーが設定されており、基礎的基本的な知識の確認と1時間ごとの学習内容の整理しやすい。 ・「読み解こう」など、全てのページに「課題」が設定されており、生徒が統計やグラフや図解等の資料を読み取り、謝意の動きを考察する学習活動を重視し、疑問について自ら学習できるように配慮されている。 ・各章に「学習とまとめと表現」としてディベートやプレゼンのテーマが設定されており、学習内容の整理とともに、自分の考えが持てるように配慮され、発展的な学習となる言語活動としても段階的に取り組めるように工夫されている。
6 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた色使いで全体的に見やすい。 ・やや文章量が多い。 ・判型はワイド（A B版）で、本文や図表も見やすいが、資料の文字が小さく読みにくい。 ・巻頭の「点字のしくみ」のページは、触って実感できる「点字の加工」が施されている。
7 その他	
総合的な評価	<p>・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き2ページで1単位時間」であるか、「1単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、この教科書は、「適している」と判断する。</p>

平成28年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（公民的分野）
発行者名（番号）・教科書名	清水書院（35） 中学 公民 日本の社会と世界
1 取扱内容	<p>・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び、学習指導要領で定める社会科の目標を達成する上で、基本的な事項を全て取り上げている。また、今日的な課題に関する資料も豊富に取り入れ、</p> <p>また、個人の尊厳と人権尊重の意義を認識させ、人権意識に基づいて考えさせると共に、公民としての基礎的素養を培う内容となっている。</p>
2 内容の選択及び扱い	<p>・序章「私たちと現代社会」においては、「私たちと生活の文化」（p 10～p 11）、「少子高齢化の未来」（p 14～p 15）、「グローバル化の時代」（p 18～p 19）等を通して、地理的分野・歴史的分野との関連が図られている。また、「もっと知りたい公民1」で歌舞伎を取り上げたり、巻末に無形文化遺産を紹介したりするなど、我が国の伝統と文化に関心を持たせ、文化の継承と創造の意義に気づかせたり、現代日本の特色である「少子高齢化」「グローバル化」が政治・経済、国際関係に影響を与えていることに気づかせたりする内容となっている。</p> <p>・個人の尊厳と人権尊重の意義を正しく理解させるため、平等権では、具体的な例をあげて人権問題について考え、探求できる内容となっており、道徳教育との関連が図られている（p 40～p 45）。</p> <p>・序章単元6の「ともに生きる社会をめざして」では、「対立と合意」「効率と公正」について、わかりやすく説明されており、全体を通して現代社会における重要な課題について、人権意識をもとに広い視野を持ち、的確な判断力や適切な表現力が養われるように配慮されている。</p> <p>・第5節「住民がきずく地方自治」において、「深める公民8」で地域活性化・復興に向けた地域の取り組みを紹介することで、それぞれの地域がかかえる課題に対して主体的に考え、地域の一員としての役割に目を向けさせるよう取り扱われている（p 90～p 91）。</p> <p>・「金融のしくみと役割」（p 122）では、「預金する場合と借りの場合の利子率」等の身近なテーマを設定し、生徒が興味・関心を持って、調べ学習に取り組めるよう配慮されている。</p> <p>・「もっと知りたい公民12」では、生徒が9年間の学習を通して得た知識や技能を用いて卒業論文を完成させることで、自らの成長を実感し、未来の社会の形成に参画する態度を養うことができるよう配慮されている。さらに、総合的な学習との関連を持たせることもできる内容となっている。</p> <p>・「国際政治と法」（p 162～p 163）では、北方領土、竹島、尖閣諸島について、日本の領土問題としてコラムで取り上げ、詳しく学習できる内容となっている。</p> <p>・「人口の増加と限りある資源」（p 175）では、化石燃料の埋蔵量や可採年数、福島第一原子力発電所の事故について説明があり、かぎりある資源・エネルギーが枯渇する前に、なにをしなければならないかを考えさせる内容となっている。</p> <p>・国旗、国歌については「国際社会と法」で取り上げているが、説明文章が</p>

	不十分でわかりにくい。(p 163 第3編第1章第1節)
3 内容の程度	<ul style="list-style-type: none"> ・本文が短い文章表現となっているため、細部にわたる記述や解説が精選されている反面、内容と表現に不十分さを感じる。 ・文章表記に関わる関連資料や図表などの資料が少ないため、資料と本文のバランスを考えると文章量の多さが目立ち、表記も常態であるため、表現に堅さが感じられる。そのため、生徒の理解を妨げてしまい、その授業での活用が不十分になると考えられる。 ・単元ごとに1つのテーマが設定されており、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。
4 内容の構成及び配列	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちと現代社会(序章)」18ページ、「私たちの生活と政治」74ページ、「私たちの生活と経済」62ページ、「国際社会を生きる」28ページの序章と3編から構成されている。 ・見開き2ページで1単位時間が想定された内容構成となっており、効率的に学習が進められるよう配慮されている。 ・「深める公民」が11箇所取り上げられており、ディベート学習を通して理解を深める構成となっている。特にp32～p33に「憲法改正」が大きく取り上げられており、時宜に適している。 ・基本原理としての憲法三原則の記述が1ページに満たず、これから学習する内容を概観するには不十分な記述となっている。 ・1単位時間ごとに1つの学習課題が設定されているが、1単位時間の学習を整理するための「まとめ」や「振り返り」が設定されていない。
5 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の「まとめ」が各編の最後に設けられており、基礎的基本的な知識及び技能の定着を図れるよう配慮されている。 ・「もっと知りたい公民」や「深める公民」のコーナーが計23設けられていることで学習内容が整理しやすく、掲載されているグラフ・写真・イラスト、統計資料等を適切に取捨選択し、多角的多面的に考察し公正に判断できる能力を育むことができるよう工夫されている。
6 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・B5版で、他社の教科書と比べて横幅が短く、学習機の大きさから取り扱いやすい。 ・本文は大きく読みやすいが資料や図表の文字が小さく、背景に色を使用しているため読みにくさがある。
7 その他	
総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き2ページで1単位時間」であるか、「1単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、1単位時間の振り返りが設定されていないなど、適切であると考え他社の教科書に比べて、「適切であるとはいいたい」。

平成28年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（公民的分野）
発行者名（番号）・教科書名	帝国書院（46） 社会科 中学生の公民 より良い社会をめざして
1 取扱内容	<p>・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び、学習指導要領で定める社会科の目標を達成する上で、基本的な事項を全て取り上げている。また、今日的な課題に関する資料も豊富に取り入れている。</p> <p>さらに、現代の社会事象に対する関心を高め、自ら考え、判断し、行動できる態度を育てる学習ができる内容となっている。</p>
2 内容の選択及び扱い	<p>・教科書全体を通して、写真・年表・地図等を活用し、地理的分野・歴史的分野との関連が図られている。</p> <p>・「YES NO」のコーナーを設け、対立軸を設定することで、生徒が様々な立場から考察できる内容になっている。</p> <p>・「トライアル」のページでは「マンションの騒音問題を解決しよう」（p 26～p 27）等を取り上げることで、学習した内容をさらに深めることによって、生徒の自主性や創造性を伸ばす工夫がなされ、道徳教育との関連性も図られ、総合的な学習の時間における発展的な学習へつなげることができる内容となっている。</p> <p>・生徒に身近でわかりやすい導入教材「クローズアップ」を各見開きで設け、生徒に現実感と臨場感を持たせ、自分自身の生活との関わりに気づかそうと意図する内容となっている。</p> <p>・政治や経済のしくみを学ぶだけではなく、よりよい社会の実現のために必要なルールや他者の権利の尊重について「対立と合意、効率と公正」という現代社会をとらえる見方・考え方に基いて繰り返し学べるよう配慮されている（p 22～p 23、p 30～p 31、p 56～p 57、p 154～p 155）。</p> <p>・「国会議員が語る政治の現場」のコーナーでは、中学生が取材した国会議員の「生の声」を通じて、社会現象に対する生徒の関心を高め、多面的・多角的に考察する能力を育てることができるようになっている。また、「パン屋の経営者になってみよう」のコーナーでは、経営者の視点に立って学習が進められる内容となっている。</p> <p>・「これからの日本の産業」では、これからの日本経済の発展の「強み」になる点として、高い技術力に基づく「ものづくり」から、生徒が日本経済の発展に前向きに参画していく意欲を高められるような内容となっている（p 140～p 143）。</p> <p>・「領土をめぐる問題」（p 168～p 169）では、日本固有の領土である北方領土、竹島、尖閣諸島に関する現状を示しつつ、平和的解決に向けてどのような方法があるのか、生徒に考えさせる内容となっている。</p> <p>・「資源・エネルギー問題」（p 190～p 191）では、メタンハイドレードなどの新しい資源や原子力発電所の現状と課題について記述されており、資源・エネルギーの安定確保のための方法を考えさせる内容となっている。</p>

3 内容の程度	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能がわかりやすい文章表現となっており、重要語句の漢字にはふりがなを多用しているため、生徒が読みやすいよう編集されている。 ・調べ方や深め方が具体的に示され、生徒が身近な課題に気づき、その課題から社会の諸問題に着目でき、主体的な学びを引き出せるよう編集されている。 ・憲法や三原則に関する記述がやや不十分に感じる。
4 内容の構成及び配列	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちと現代社会」28ページ、「私たちと民主主義」74ページ、「私たちと経済」60ページ、「私たちと国際社会」34ページ、「より良い社会をめざして」8ページの5部構成である。 ・学習内容はバランスよく、学習指導要領に示された順序通りの配列となっている。 ・見開き2ページで1単位時間を想定し、学習が効率よく進められるように配慮されている。 ・図解・写真・グラフ・新聞記事・コラム等、内容の構成と関連ある資料が見やすく、そして十分に配置されている。
5 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きの単元ごとに「学習課題」が設定され、身近な事例や現実社会の動きから学べるように工夫され学習内容を把握しやすく、「まとめ」も明示されており、学習したことを整理し、理解しやすいように工夫されている。 ・「トライアル公民」のコーナーは、課題解決学習的な要素を盛り込んでおり、発展的な学習ができる。 ・「持続可能な社会をめざして」の特設ページでは、8つのテーマから思考・判断・表現する能力を育て、社会参画への態度を養うよう工夫されている。 ・「クローズアップ」というコーナーは「学習課題」に関する「質問」と図が配置され、地理と歴史の関係を語句によって示しているため、学習した内容と現在の社会状況を関連づけて理解できるようになっており、身近な問題と学習内容の関連に気づかせ、生徒の疑問や関心・意欲が喚起され、学習の導入にできるよう工夫されている。 ・単元ごとの「説明しよう」のコーナーは、グループ学習に活用できる。
6 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・あざやかな色使いの写真や資料が多く、見やすい。 ・判型がワイド（A B版）であるため、比較的大判の写真が用いられているので興味や関心が持てるが、図表は情報量が多すぎるため、理解を妨げる。 ・字間、行間は適切であるが、全体的に文字がやや小さく、本文以外は読みにくさがある。
7 その他	
総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き2ページで1単位時間」であるか、「1単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、この教科書は、「やや適している」と判断する。

平成28年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（公民的分野）
発行者名（番号）・教科書名	日本文教出版（116） 中学社会 公民的分野
1 取扱内容	<p>・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び、学習指導要領で定める社会科の目標を達成する上で、基本的な事項を全て取り上げている。また、今日的な課題に関する資料も豊富に取り入れている。</p> <p>また、生徒が個人の尊厳と基本的人権の意義と重要性を正しく認識し、人間尊重の立場で考えることができる内容となっている。</p>
2 内容の選択及び扱い	<p>・全体を通して、人間尊重の精神を培うことに主眼が置かれている。特に「わたしたちの生活と政治」においては、男女共同参画社会の目指す方向や福祉共生社会のあり方などについて考えられるよう取り扱われており、道徳教育との関連性も図られている。</p> <p>・「対立と合意」（p24～p27）では、現代社会をとらえる見方や考え方を学べるようになっており、それを活用する課題も設けられている。また、ここで学んだスキルは、最終第5編のレポート作成で役立つようになっている。</p> <p>・第5編「私たちの課題」（p205～p216）では、エネルギー問題、防災等に関わるレポートをまとめる内容となっている。3年間の学習を通して得た知識や技能を活用して、多面的・多角的な考察を行えるよう取り扱われており、総合的な学習の時間を通じて発展的な学習につなげることもできる。</p> <p>・「グローバル化する世界で生きる私たち」（p8～p9）では、地理的分野・歴史的分野との関連を図り、それらの学習の成果を活かすことができる内容となっている。</p> <p>・「環境保全への取り組み」（p94～p95）では、地域の課題を解決するために、一人の住民として「地域のために何ができるのか」という地域的な視点に立って、探求活動を行うことができるよう取り扱われている。</p> <p>・「裁判員シミュレーション」（p112～p113）では、社会参画・貢献の手がかりとなる特設ページを示し、社会の一員としての自覚を培うことができるようになっている。</p> <p>・「国の収入を支える税と国債」（p160）では、税の内容をわかりやすく図で示すことにより、税のしくみについて生徒が興味・関心を持ち「金融スキルアップ」（p156～p157）では、「利子の増え方」「どの企業から株を買うか」等、具体的な事例を通して日常生活における経済活動を消費者の立場から考えることができる発展的な学習が設定されている。</p> <p>・「日本の領土をめぐる問題」（p179）では、日本固有の領土である、北方領土、竹島、尖閣諸島を写真と地図で紹介し、我が国の領域が明確に読み取れる内容となっている。</p> <p>・社会科のまとめとして、日本のエネルギー問題をレポートの課題の例として取り上げ、福島第一原子力発電所の事故にふれながら、「効率と公正」の観点から考えさせる内容となっている（p208）。</p>
3 内容の程度	<p>・本文は、記述や解説が必要十分に精選され、生徒の発達段階を考慮した基礎的基本的な知識及び技能が適切に示されている。</p> <p>・ページ下に「確認と活用」を示し、学習したことを整理確認できるとともに「活用」によって課題が示され、生徒に興味や関心を持って自発的な学習をうながすよ</p>

	<p>う工夫され、自主的な学習に取り組めるよう配慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラムで「ビッグデータの活用」や「ワーキングプア問題」をはじめ多くの時事問題を取り上げている。
4 内容の構成及び配列	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちと現代社会」30ページ、「私たちの生活と政治」87ページ、「私たちの生活と経済」55ページ、「私たちと国際社会」29ページ、「私たちの課題」11ページの5編から構成。 ・学習内容がバランスよく配分され、全体としてよくまとまっている。そのため、生徒が無理なく学習できる配列となっている。 ・見開き2ページで1単位時間を想定し、学習が効率よく進められるよう配慮されている。 ・本文と適切に関連する図解・写真・グラフ・新聞記事・コラム等、内容の構成と関連ある資料が見やすく、豊富に掲載されており、考えるきっかけとなったり深めたりできるよう配慮されている。しかし、図表など情報量が多くなりすぎ、整理して理解することが不十分な箇所も見られる。 ・生徒の身近な地方自治から国政という配列になっており、主体的学べるよう配慮されている。
5 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・單元ごとに「学習課題」が明示され、「確認と活用」コーナーが設定されており、学習内容の把握と振り返りが設定されており、生徒の理解を深めることができる。 ・各編の章末には、生徒が習得した知識と見方や考え方を活用する課題を設け、学力の定着が図れるよう工夫されている。 ・最初に大きく資料が示され、吹き出しによる質問もあるため、導入として学習を始められる。 ・「キーワード」が示され、学習の「まとめ」もあり、自学自習できる内容となっている。 ・「公民プラスα」のコラムより、学習内容をより深く理解できる。 ・各編に学習の基礎となる考え方を知ることができる「ナビ」があり、「ズームイン」でより具体的に学習できるよう理解できる。 ・ハンバーガーを例とした多様な食文化の紹介（p9）やハワイ旅行を例に価格の違いを考えさせる（p130）など、生徒の興味関心を引き出す工夫が為されている。
6 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・学習箇所位置を確かめながら学習できるよう、インデックスで明示されている。 ・文字は大きく、他社の教科書より読みやすい。 ・判型がワイド（A B版）のため、資料や図・写真は見やすいが、説明などの文字は小さすぎて読みにくさがある。 ・簡潔に説明されており、文章量も適切である。
7 その他	
総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き2ページで1単位時間」であるか、「1単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、この教科書は、「もっとも適している」と判断する。

平成28年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（公民的分野）
発行者名（番号）・教科書名	自由社（225） 新しい公民教科書
1 取扱内容	<p>・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び、学習指導要領で定める社会科の目標を達成する上で、基本的な事項を全て取り上げている。また、今日的な課題に関する資料も豊富に取り入れている。</p> <p>また、今日的な課題に関する資料も豊富に取り入れ、考え方や生き方の基礎となる幅広い知識や教養を育むことに視点が置かれている。</p>
2 内容の選択及び扱い	<p>・基礎・基本から発展へと系統的に反復学習ができるように配慮されている。また、章末に復習コーナーを設け、繰り返し学習ができる内容が選択されている。</p> <p>・情報化社会について、動物の情報伝達や人類の文明史から説き起こす等、ものごとの根源を掘り下げて見ることにより、生徒の興味を喚起させる内容が盛り込まれている。</p> <p>・第5章では、世界の国々との関係を通じて地理的な視点を、また、第2章では欧米の立憲主義（p40～p41）と日本古来の合議（p48～p49）を通じて、歴史的な視点からとらえさせる内容となっている。さらに「もっと知りたい」（p12～p17）では、青色LED発明やiPS細胞作製でノーベル章を受賞したことや小澤征爾等、世界で活躍する人物について取り上げたり、埴輪や土器、能面、岡本太郎の巨大壁画等、日本の伝統的な芸術等について、中学生に理解できるようにわかりやすい記述がなされたりしている。さらに、理科や美術、音楽の学習への関連性を考慮した内容となっている。</p> <p>・「対立と合意、効率と公正」（p183）について、公共の精神との関連にも視点を置いて取り上げられている。</p> <p>・第5章「国際社会に生きる日本」では、国際社会における国家のあり方や個人とのつながり等についても考えさせる内容となっている。また、いろいろな意見を紹介し、終章にディベートのページを設けることで、公民として論議をしていく力が積極的に育つようにしており、総合的な学習の時間で発展的な学習につなげることができる内容となっている。</p> <p>・「共同社会と利益社会」（p20～p21）、「私たちの地域社会」（p30～p31）において、生徒に地域の伝統行事や共同作業に参加することの大切さについて考えさせる内容となっている。</p> <p>・「もっと知りたい」（p148～p149）では、我が国の領土に関する問題として、北方領土と竹島の領土問題、尖閣諸島に対する他国による領有権の主張について、どのようないきさつで起こったか、詳しく記述されている。</p> <p>・「エネルギーと資源の未来」（p172～p173）では、福島第一原子力発電所の事故について触れながら、新たなエネルギーの確保と省資源について考えさせる内容となっている。</p> <p>・未成年の子どもは親権に服さなければならないことを民法と事例により説明されるなど他社の教科書と比べて「家族」に関することの取り扱いが多い（p20～p27まで）。</p> <p>・憲法改正の視点として、自衛隊のあり方と第9条に関わって、踏み込んだ内容の取り扱いとなっている。</p> <p>・「日本」という表記を、すべて「わが国」と記述している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権にかかわる内容が少なく、「新しい人権」をコラム扱いにするなど、考え方にやや偏りが見られる。
3 内容の程度	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な記述と側注欄の図版等により、基礎的・基本的な知識がわかりやすく整理され、生徒が理解しやすいように配慮されている。 ・政治や経済の仕組みの理解に役立つ関連資料や話題が豊富で、課題を掘り下げて深める学習ができるようになっている。
4 内容の構成及び配列	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代日本の自画像」(序章) 18ページ、第1章「個人と社会生活」17ページ、第2章「立憲国家と国民」17ページ、第3章「日本国憲法と立憲的民主国家」43ページ、第4章「国民生活と経済」35ページ、第5章「国際社会に生きる」43ページ、「持続可能な社会を目指して」(終章) 17ページの7章から構成されている。 ・見開き2ページで1単位時間を想定し、学習が効率よく進められるよう配慮されている。 ・系統的に配列されているが、内容の構成と配列が単調になってしまっている。
5 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・本文は大きく読みやすいが、図表が少なく、生徒の理解の手助けとなる資料が少ない。 ・各ページに「ここがポイント」を設け、学習内容を整理できるようにしている。 ・1単位時間ごとの見出しに「学習課題」が明示されているが、しかし、1単位時間の終わりに生徒が学習内容を整理して「まとめ」や「振り返り」の工夫がない。 ・各章の終わりに学習のまとめとして「学習の発展」を設け、1000字～4000字程度の文章に学習内容をまとめる課題が設定されており、思考力や表現力を高められるように工夫されている。 ・「もっと知りたい」というコーナーを設け、発展的な学習へと深める工夫が為されている。
6 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・B5版の大きさであり、他社の教科書と比べると横幅が短く、生徒の学習機の大きさから取り扱いやすい。 ・文字の大きさ、字間・行間は適切で、配色もよく見やすい。 ・文章量が多く、資料等の掲載が少ないため、講義形式の文章表現となり、生徒の興味・関心が薄れる。
7 その他	
総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き2ページで1単位時間」であるか、「1単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されているか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られているか」などを中心に考え合わせて評価した。教科書として使用できなくはないが、1単位時間の振り返りに工夫がない、基本的人権にかかわる内容が少ない、資料の掲載が少ないなど、適切であるとする他社の教科書に比べて、「適切であるとはいいがたい」。

平成28年度以降使用中学校教科用図書調査報告書

教科（科目）名	社会（公民的分野）
発行者名（番号）・教科書名	育鵬社（227） 〔新編〕新しいみんなの公民
1 取扱内容	<p>・教育基本法に定める教育の目的・目標等、学校教育法に定める義務教育の目標等及び、学習指導要領で定める社会科の目標を達成する上で、基本的な事項を全て取り上げている。また、今日的な課題に関する資料も豊富に取り入れている。</p> <p>また、社会的な問題について考察することにより、公民的資質の基礎を養うことができるよう取り扱われている。</p>
2 内容の選択及び扱い	<p>・「私たちの生活と現代社会」では、具体的な事例を挙げることで興味・関心・意欲を高め、「対立から合意へ」（p38～p39）では現代社会をとらえる見方や考え方を学べるようになっている。</p> <p>・第5章「持続可能な社会をつくるために」（p196～p207）を中心に、現代社会についての基礎的・基本的な知識について詳しく記述すると共に、情報化社会、少子化など今日的な課題についても説明されている。</p> <p>・単元の内容により、ネット社会（p15）、私たちのまわりのクールジャパン（p169）等の日常生活にかかわる内容について記述されており、生徒が身近な問題に対して学習を深められるように工夫されている。</p> <p>・過去から現在、未来へと続く「タテ軸」と家族、地域社会、国家、国際社会と広がる「ヨコ軸」の交点に立って、何をどう学ぶか考えさせ、地理的分野・歴史的分野や道徳の内容との関連を図った構成となっている（p2～p3）。</p> <p>・意見が対立する「新聞の社説」を両論併記し、それを元にしたディベートを構成する等、多面的・多角的な視点を養う教材が扱われている（p94～p95）。</p> <p>・「私たちの生活と政治」では、第2章で日本国憲法の基本原則、人権思想史、基本的人権（p43～p82）についての学習が取り上げられ、第3章で選挙制度、立法・司法・行政、地方自治（p84～p120）の順に学習する構成となっている。</p> <p>・「私たちのまちづくり」という単元が設けられ、身近な地域の学習として総合的な学習の時間を通じた発展的な学習につなげることもできる内容となっている（p116～p117）。</p> <p>・社会科のまとめとして、「私は内閣総理大臣『持続可能な社会』を築いていくための国づくりの構想を立てよう」では、テーマ設定からレポートにまとめるまでの一連の学習の流れが示されている。</p> <p>・「国家とは何か」（p176～p177）では、北方領土や竹島に関する領土問題や尖閣諸島をめぐる情勢について、政府の見解を要約して紹介されている。</p> <p>また、「領土を取り戻す、守るということ」（p178～p179）を設け、領土をめぐる歴史的経緯を取り上げている。</p> <p>・「資源エネルギー問題」（p200～p201）では、福島第一原子力発電所の事故にふれながら、新エネルギーの開発や省エネ・リサイクルについて考えさせる内容となっている。</p> <p>・憲法改正に傾斜しがちな内容と思われるが、改正の「賛否両論」を併記するなどの配慮も見られる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ p 1 9 4 ～ p 1 9 5 をはじめ、 p 5 1 ・ p 5 6 ・ p 1 3 8 など、様々な箇所 で東日本大震災関連の話題や写真が取り上げられており、防災学習の視点を取り 入れている。
3 内容の程度	<ul style="list-style-type: none"> ・簡潔でわかりやすい文章記述と豊富な図版がバランスよくまとめられており、 基礎的・基本的な知識及び技能が定着しやすいように配慮されている。 ・各章の最初に「政治の入り口」「経済の入り口」などのページを設け、各章で の学習内容を概観する言語活動が見開き 2 ページで設けられ、興味関心を持って 学習を進める手立てが示され、取り組みやすくなっている。
4 内容の構成 及び配列	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちの生活と現代社会」 4 2 ページ、「私たちの生活と政治～日本国憲法 の基本原則～」 3 8 ページ、「私たちの生活と政治～民主政治と政治参加～」 3 6 ページ、「私たちの生活と経済」 4 8 ページ、「私たちと国際社会の課題」 3 6 ページの 5 章で構成されている。 ・見開き 2 ページで 1 単位時間を想定し、学習が効率的に進められるよう配慮 されている。 ・本文の内容に関して、写真、グラフ、図表、新聞記事、コラム等の資料を適切 に配置し、生徒の興味関心が高められる構成となっている。
5 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 単位時間（見開き）見出しの下に「学習課題」を示し、また見開きページ 内に「やってみよう」「考えよう」「理解を深めよう」等の特設コーナーを設け、 ディベートやプレゼンテーション、レポートの書き方等のスキルが学べるよう 工夫されている。 ・重要語句の確認や憲法、法令、条約など学習内容と関連した情報が紹介され ており、各章の最後（章によっては節の終わりにも）に「学習のまとめ」が掲 載され、重要語句や学習内容の確認ができる。 ・キャラクターに疑問や学習ポイントを示させることで、生徒になじみやすく 考えさせる内容や視点を焦点化できるよう工夫されている。 ・「理解を深めよう」で、より深く理解ができるように配慮されている。 ・内容理解を助ける「コラム」は適宜掲載されているが、生徒に考えさせる材 料は少ない。
6 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や写真が豊富であり、文字の大きさ・字間・行間も適切で見やすい。 ・図表に工夫がなされ、理解を助け深めやすい。 ・色使いが落ち着いており、文章も読みやすくなっているが、本文以外の文字 が小さいため、図表等の資料の説明文が読みにくい。
7 その他	
総合的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「取り扱い内容」や「内容の選択」をはじめ、使用上の便宜までを検討し、授 業での使いやすさ・理解を図る上で、特に「見開き 2 ページで 1 単位時間」で あるか、「1 単位時間の『学習課題』と『授業後のふりかえり』が設定されてい るか」「資料の豊富さ」「文章表現は適切な量と表現で、資料との関連が図られ ているか」などを中心に考え合わせて評価した。その結果、「教育出版」の教科 書ときわめて似ているが、内容理解を助ける「コラム」は適宜掲載されてい るが、生徒に考えさせる材料は少ない。そのため、この教科書は、「やや適してい る」と判断する。